

## 今後の課題等の検討について

### 1. 外部経済・不経済の計測について

#### (1) 現状と課題

##### 技術的外部経済・不経済

- ・ 貨幣換算を行うことにより、費用便益分析における便益として計上することが可能である。
- ・ 環境への影響など、CVM（仮想市場法）や原単位法等によって計測されているものもあるが、信頼性・精度等に課題がある。

##### 金銭的外部経済・不経済

- ・ 便益の重複計上を避けるため、費用便益分析における便益として計上しないのが一般的である。

#### (2) 検討事項

##### 技術的外部経済・不経済

- ・ CVM の適用条件の検討
- ・ 原単位の設定の考え方の検討

##### 金銭的外部経済・不経済

- ・ 地域経済効果などの取扱いの検討

##### 外部経済・不経済

公共サービスの提供によって市場の外部にもたらされる効果

##### 技術的外部経済・不経済：

- ・ 直接的に市場の外部にもたらされる効果

（例）地球温暖化、大気汚染、水質汚濁、騒音、振動、動植物への影響等の変化等

##### 金銭的外部経済・不経済：

- ・ 公共サービスを供給する事業者の利得やサービスを消費する利用者の行動の変化等を通じて（市場を介して）間接的にもたらされる効果

（例）地価上昇、所得増加 等

## 2 . 事業遅延による社会的損失額の計測及び事業評価への導入について

### ( 1 ) 現状と課題

- ・事業の遅延により当初想定されていた効果を損なっているケースが数多くあり、これによって生じる社会的損失等を考慮した事業評価を行う必要が生じている。
- ・社会的損失の発生構造に基づいて事業遅延による社会的損失額を計測する手法が検討されてきているが、どのように事業評価に取り入れていくかが課題となっている。
- ・事業遅延による社会的損失額の計測結果の活用にあたって、その方法の検討が必要である。

### ( 2 ) 検討事項

- ・事業遅延の考え方の整理
- ・社会的損失額の発生構造と計測手法の検討
- ・事業遅延による社会的損失額を事業評価へ取り入れるための検討

## 3 . 将来の不確実性、リスクに対応できる評価手法について

### ( 1 ) 現状と課題

- ・不確実性に対応する手法として感度分析があるが、利用可能なデータが少なく、また、知見の蓄積が不十分なため、理論的な計測は容易ではない。
- ・防災、安全性については、被害が生じると甚大なものとなりリスクを適切に評価する必要があるが、住民の支払意志額で評価すると評価にバラツキが生じる等、合理的な評価が難しい。

### ( 2 ) 検討事項

- ・事業評価における感度分析の適用の考え方の整理
- ・事業評価において考慮すべきリスクの検討
- ・防災、安全性の合理的な評価手法の検討

#### 不確実性とリスク

不確実性：ある事象（例えば、地震や天候、将来交通量、事業期間等）の状態について、確定度合いが低いこと（uncertainty）又は変動性が存在すること（variability）

リ ス ク：対象とする事象が不確実性を持つことによって被害、損失が発生する可能性またはその被害、損失の大きさ

## 4．再評価における既投資額や中止に伴う追加コストの取扱いについて

### (1) 現状と課題

#### 既投資額の取扱い

- ・再評価において以下の2つの費用便益分析を行うことが考えられるが、その結果の取扱いについて整理されていない。

- 1) 既投資額を含めた全事業費、全便益を考慮した費用便益分析
- 2) 追加的に必要となる費用、便益に着目した費用便益分析

- ・また、上記における事業資産の取扱い、社会的割引率の検討が必要である。

#### 中止に伴う追加コストの取扱い

- ・中止に伴う追加コスト、中止後の事業資産、また、中止に伴い新たに必要となった事業の評価の方法が確立されていない。

### (2) 検討事項

#### 既投資額の取扱い

- ・再評価における既投資額や社会的割引率の取扱いに関する検討

#### 中止に伴う追加コストの取扱い

- ・中止に伴う追加コスト、既に形成された事業資産の取扱いについて会計学的視点からの検討

## 5．類似の事業種別間における評価手法・効果の計測手法等の整合性の確保について

### (1) 現状と課題

- ・類似の事業種別間において、評価項目、評価手法、評価の計測方法等の整合性が必ずしも図られていない。また、整合性を図るべき事項も整理されていない。

### (2) 検討事項

#### 整合を図るべき事項の整理

#### 整合を図る方策の検討

## 6．評価の結果得られた知見の活用について

### (1) 現状と課題

- ・評価の結果は、その事業の今後の進め方には反映されているが、結果を蓄積し同種事業や他の事業へ反映される仕組みにはなっていない。

どのようなデータを蓄積すべきかが明らかでない。

### (2) 検討事項

#### 蓄積すべきデータの考え方の整理

#### 評価の結果得られた知見の活用方策の検討